

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200531		
法人名	株式会社 パラディ		
事業所名	グループホーム 長寿の里 相知		
所在地	佐賀県唐津市相知町黒岩518-2		
自己評価作成日	平成24年8月28日	評価結果市町村受理日	平成24年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成24年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の要望・希望に添えるように努力している。 利用者様への理解・疑問等へ向けミーティングの開催。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

唐津市郊外の緑に包まれた環境にある2ユニットのホームである。また、この地域は日本の滝百選の見返りの滝や日本の棚田百選の藤野の棚田など観光の町でもある。「明るく、楽しく、健康で笑顔ある生活を」というホーム理念のもと、入居者の希望や思いを尊重した支援が行われている。開設当初より地域との付き合いを大切に、普段から挨拶や地区行事への参加、ホーム主催の夏祭り参加の呼びかけなど行いながら、交流を深められるよう努められている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
				菜の花	あじさい	菜の花	あじさい
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りにて唱和し確認している。また、実践での理念を掲げている。	「明るく、楽しく、健康で笑顔ある生活を」という理念を掲げ、朝礼時の唱和やミーティングなどで確認し共有を行っている。職員全体が理念を思い抱きながら、日々のケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には困難であるが、行事・散歩などを通し地域の方との交流の機会を設けている。	散歩時に挨拶を交わしたり、地区の行事には可能な範囲で参加するなど普段から地域とのつながりを大切にしている。ホームで開催する夏祭りには、家族や地域の方を招待するなど交流の場を作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、市・介護相談員の方々の協力によって認知症への理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状の報告や行事の報告、参加を呼び掛けています。	定期的に会議を開催し、入居者の状況やホームの行事など報告を行っている。地域や行政などの参加者から意見や情報の提供を受け、サービス向上に努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営・現状に関して、市へ報告し解決策の模索を行いトラブルを未然に防ぐ努力をしている。	日頃より市担当者とはホームの運営や現状など報告し、アドバイスをもらうなど相談し合える関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの施錠禁止(夜間除く)虐待・身体拘束等について不定期であるが議題に取り上げ会議・勉強会を行っています。	身体拘束をしないケアについて勉強会を通して、職員全体で共有を行っている。玄関など鍵をかけずに、安全に過ごせるように見守りに気を配るなど職員各々で考えて対応できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて補完し、機会あれば外部研修への参加を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援に関しては、細かく注意・促しを行っていますが、青年後見制度に関しての外部研修が少ない為、参加できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書による説明と利用開始されたからの疑問など、事務と相談しながら対応しています。また、制度上の疑問に関しては、市の協力を仰いでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限りの対応と「あじさい便り」を活用しご家族へ現状の報告を行っています。	家族来訪の際は、声をかけ、ホームでの様子など報告し、相談や意見など何でも言ってもらえるような関係を目指し対応をされている。また、ホーム便りに職員の言葉や入居者の写真を添え、家族へ近況の報告を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング時に必要な物品方針の提案等の把握と休日・給与・待遇に関して迅速に事務への報告を行っています。	ミーティングや会議、定期的な職員との個別面談などを行い、意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日・給与・待遇に関して迅速に事務への報告を行っています。定期での昇給は困難であるが、職員の実情を踏まえ可能な限りの処遇の改善を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者へ管理者側からの報告となるが、外部研修への参加、施設内研修の開催を積極的に取り入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの連携を取り、取り組んでいます。(月1回の勉強会への出席)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、御家族・ケアマネージャーからの情報収集に努め本人から可能であれば要望等聞き取りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、御家族・ケアマネージャーからの情報収集に努め本人から可能であれば要望等聞き取りを行っています。特に家庭環境の不具合等あれば、配慮し面会等についても考慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最低限、家族へ負担の少ないよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員から、利用者様。利用者様から職員へ、意見の出しやすい環境作りと利用者様主体への支援と勉強会・会議等で取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の意見・要望を基本として取り入れ、年々変化する環境と要望の聞き取りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪・ドライブ・面会など、ご本人の思いでと社会資源の活用に努めています。	知人の来訪、美容院やお墓参り、ドライブでは、入居前に住んでいた地域を通り、眺め、懐かしむ時間をとるなど、馴染みの関係が途切れないよう、可能な範囲で支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の中で、体力、プライベートな時間を考慮し孤立のないよう職員が関わりながら良い人間関係の構築を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、入院先等で疑問や不安に関しての話など要望あれば対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に本人のわがままを実現可能な範囲で、職員・ご家族様と協力のもと行っています。意思の疎通が困難な場合も職員・家族との相談を行い、型にはめない介護になるように対応しています。	入居者の発した些細な言葉から意向や希望をくみ取り、時には家族に協力を求めながら、実現可能な範囲で、希望に沿えるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、本人から聞き取りを行い日々接する中で得た情報も会議等で出し合い情報の収集と伝達を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中で、体力、プライベートな時間を考慮し孤立のないよう職員が関わりながら良い人間関係の構築を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の経過記録への変化の記入を徹底しています。(言動・態度等)その中で、必要あれば家族へ相談し計画作成担当に報告、記録の読み取りで伝わるよう対応しています。	日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を踏まえ計画が作成されているが、計画作成に至る会議の記録がなされていなかった。	今後は介護計画作成の際の会議録の準備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録への変化の記入を徹底しています。(言動・態度等)その中で、必要あれば会議で取り上げ計画作成担当に報告し今後の支援へ繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームで可能な限りの対応に関しては柔軟に対応し、些細な要望や希望を取り入れています。医療面での対応のみ困難な部分が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り、本人の以前の生活を途切れさせないよう家族・職員で相談しながら対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を最優先に対応しています。また、必要時は病院受診など行っています。	入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるように支援が行われている。また、必要に応じて、専門医療機関の受診支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の変化や気づきを看護師・リーダー・管理者へ報告し必要時に受診できるよう体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な見舞いと看護師との連絡調整を行い、スムーズな退院へ対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を尊重し、病院での加療とホームでの生活との両立を図り介護・看護職員・家族・主治医と相談しながら対応するようにしています。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について説明を行ったり、その時々で対応できるように準備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議・勉強会を通して、看護師より指導を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・消防団員より指導を行っています。	消防署や地域の消防団員などの協力のもと、年に2回、避難や消火などの訓練を行っている。昼と夜の職員数の違いで、避難にどれくらいの時間を要するかを比較しながら訓練に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	口調・言葉に十分に気を付けるよう指導しています。また入浴・排泄介助の際はプライバシーの保護を指導しています。	プライバシーや自尊心を傷つけないよう、言葉遣いには注意して対応するように努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位にならないよう、必ず言葉をかけ些細な要望でも聞き取るようにしています。可能な限り、その場で実現できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調・タイミングを考えながら、本人の時間を尊重しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など、一緒に着替え準備をしたり職員が考慮しながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合わせ出来る範囲で対応している。また、食事準備・片づけに関しても体調みながら一緒に出来るよう配慮している。	テーブル上で下ごしらえや、米を研いだりする準備や片付けを一緒に行っている。また、職員と入居者はテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては、熱中症予防・脳血管性疾患の予防から特に気を付けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施を行い、週1度歯科医の訪問を利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の状態に合わせ、オムツの使用をしています。また、個人の排尿の状態・タイミングによってトイレへの誘導を行っています。	入居者の表情や行動から察知したり、時間を見計らって誘導するなどトイレで排泄できるように支援を行っている。また、紙パンツ類の使用など一人ひとりの状態に応じて検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との相談・適度な運動と食事への配慮を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴の提供を行っています。基本的な曜日は決めていますが本人のタイミングに合わせています。	一定の入浴曜日を決めているが、入居者の希望やタイミングに合わせて入浴の支援できるように準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤に頼らない対応を心がけ、昼夜問わず関わりを持っています。また、室温の調整等にも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬・外用薬に関して、勉強会を通じて服用方法・効果・禁止事項・注意点に関して指導しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の習慣や趣味を考慮しながら、マンネリ化の軽減と利用者様の生きがいへと通じるよう対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、その日に出かける事ができるよう指導しています。業務優先ではなく、人らしい生活の提供を目指しています。	頻度や時間など身体の状態に配慮しながら、できる限り、意向や希望に沿って、散歩や墓参り、海などヘドライブへ出かけるなど外出の支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の同行時、金銭の支払いの支援や管理可能な方には金銭を所持をお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望あれば使用して頂いています。(あまりの多さに家族負担にならないよう配慮はします)手紙に関しては、手渡すようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾と清掃を心がけて対応しています。また、居室前にネームプレートを設置しています。	共用のホールからは田畑などの景色を眺めることができ、季節の移り変わりを感じることができる。また、温度計による室温管理や臭いへの配慮など、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルにならないように、配慮しながら共有スペースの確保を行っています。馴染みの席はできているようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人の馴染みの家具や食器を危険のない程度に自由に利用して頂いています。	仏壇や家族の写真など思いの品を持ち込み、自分好みの居室空間を作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に分かるよう、プレートの利用と声掛けと整理整頓を実施しています。		